

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします

調査実施日：令和7年4月17日（木）

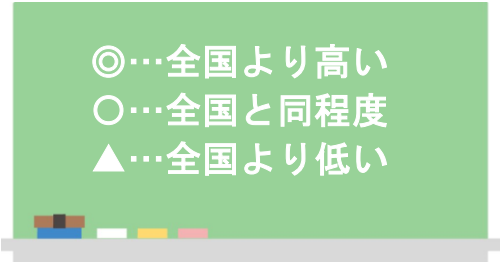
伊豆市教育委員会

この調査は、子供たちの学力を把握するための「教科に関する調査（令和7年度は国語、算数・数学、理科）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」で構成されています。この調査結果をふまえ、学校と家庭、地域が連携しながら、子供たちの学力向上や豊かな心の育成、規則正しい生活習慣の定着を目指していくことが望まれます。

なお、本資料において、小学生と義務教育学校前期課程を「小学生・（小）」、中学生と義務教育学校後期課程を「中学生・（中）」と表記します。

1. 教科に関する調査結果

平均正答率 (平均 IRT ^(※1) スコア)	小学校・義務教育学校6年生			中学3年生・義務教育学校9年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
令和5年度	○	○		○	▲	
令和6年度	▲	▲		◎	○	
令和7年度	○	○	○	◎	◎	◎



※1 「IRT」とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のこと。令和7年度中学校理科は、IRT スコアで分析。

（1）国語

- ◎（中）相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
- ▲（小）目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

（2）算数・数学

- ◎（小）平行四辺形や台形の意味や性質を理解している。
- ◎（中）条件を変えた場面について、図形の証明について評価・改善することができる。
- ◎（中）事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ▲（小）データの活用について、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。

（3）理科

- ◎（小）水の温まり方について問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができる。
- ◎（中）ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できる。（化学変化などの事象は動画で視聴）

令和7年度調査から教科調査に CBT^(※2)を導入し、中学校理科をオンライン方式で実施しました。CBT の利点を生かすことで、中学校理科では「観察、実験の過程を示すこと」や「解答に当たって画面上で試行錯誤すること」が可能となりました。

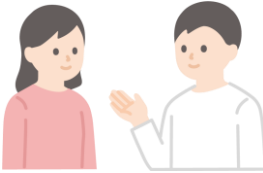
CBT を活用した問題について、伊豆市の中学生は全国平均よりも大幅に高い結果となりました。日常的な ICT 活用が定着し、情報を効率よく整理・把握する力や問題を見極めて重要な場面を再度確認する複合的な学習スキルが定着していると感じます。

※2 「CBT」は、Computer Based Testing（コンピュータ・ベースド・テスト）の略で、コンピュータを使って解答する試験方式を指します。

（4）考 察 ～伊豆市の子供たちはこんな力が身に付いています！～

① 伝える力（表現力・コミュニケーション力）

相手の反応を踏まえて伝え方を工夫することで、自分の考えをより明確に、効果的に伝えられるようになっています。この力は、他者との意見交換や協働的な学びにもつながります。



② 数学的思考力と問題解決力

図形の証明や解き方を説明する問題からは、柔軟に仮説・検証を行い、自らの考えを論理的に組み立てる力が育っていることがわかります。

③ 科学的探究力・考察力

理科では、観察・実験の妥当性を検討し、知識と実験結果を結びつけて解釈する力が身に付いています。特に、密度に着目して気体の性質を分析する姿勢は、深い理解の表れです。



このように、学習を通して表現する力と思考する力の両方が育まれていることが分かります。今後も、伊豆市の教育として掲げる「子どもが主役となる授業改善」「積極的な ICT 活用」「地域資源を活用して生き方を考えるキャリア教育」を推進し、未来を生きる力を育んでいきます。

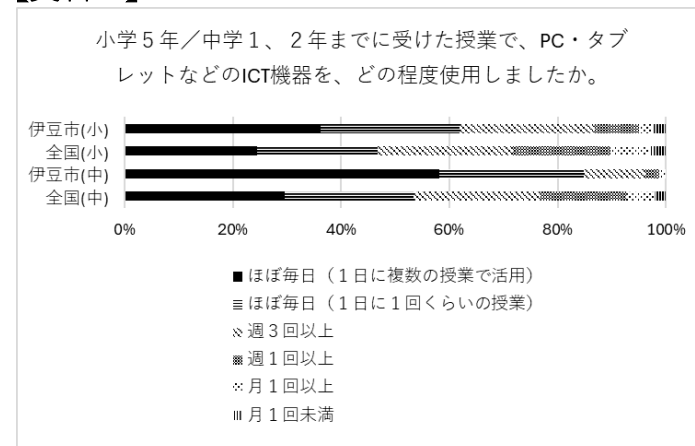
2. 質問紙から分かる伊豆市の子供たち

(1) ICT を活かした主体的な学習習慣！

資料1をご覧ください。小・中学生ともに、授業におけるPC・タブレットの使用については、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と回答した児童生徒が全国平均を大幅に上回っています。伊豆市の子供たちは、日常的にPC・タブレットを学習に活用していることが分かりました。



【資料1】



文部科学省は教育DXに係るKPI（目標達成に向けた評価指数）を示しています。「個別最適な学び・協働的な学びの充実」においては、資料2に示した場面について、令和8年には80%達成という目標数値を示しています。そこで、質問紙調査のうち、資料2の項目「2・4」に関連する回答結果をご覧ください。

【資料2】

以下の場面で端末を週3回以上活用する学校

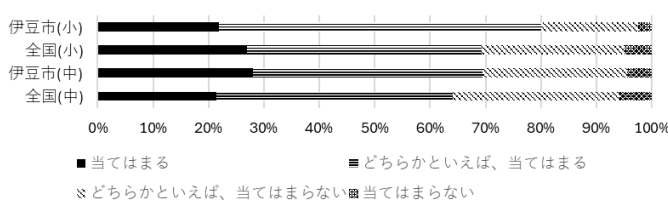
- 1 調べる場面
- 2 発表・表現する場面
- 3 教職員とやり取りする場面
- 4 児童生徒同士でやりとりする場面
- 5 理解度に合わせて課題に取り組む場面

資料3をみると、伊豆市の子供たちは、端末を活用して情報を整理できていることが分かります。相手に自分の考えを分かりやすく伝えるために、情報を整理することは大切なプロセスとなります。



【資料3】

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考などを使ってまとめる）ことができますか

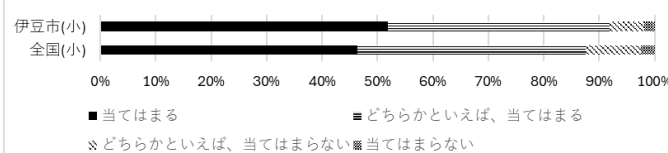


資料4は、小学生を対象とした質問項目です。端末を活用して「友達と協力しながら学習を進めることができた」と回答した児童の割合が全国平均を上回りました。端末を活用することで共同作業や意見の共有がしやすくなり、他者と協力して学べていることが分かります。



【資料4】

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはどれくらい当てはまりますか。
「友達と協力しながら学習を進めることができる」

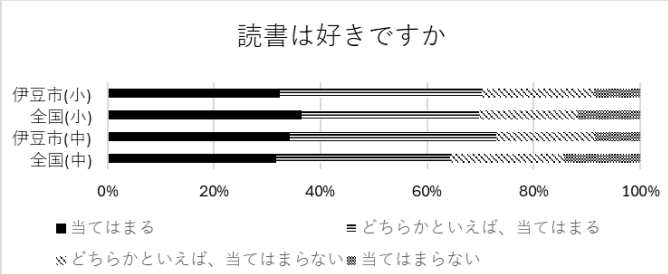


(2) 読書に親しむ伊豆っ子！

資料5にある「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、国語、算数・数学、理科のいずれも平均正答率が高く相関関係がみられました。また伊豆市の小・中学生は、授業時間以外に読書する時間が全国平均より高いことが分かりました。伊豆市では「伊豆市の子どもにおすすめの本百選」を選定して、子供たちの読書活動の推進に取り組んでいます。図書館もイベントを企画していますので、ぜひご利用ください。



【資料5】



(3) 自分を認める力が弱い？

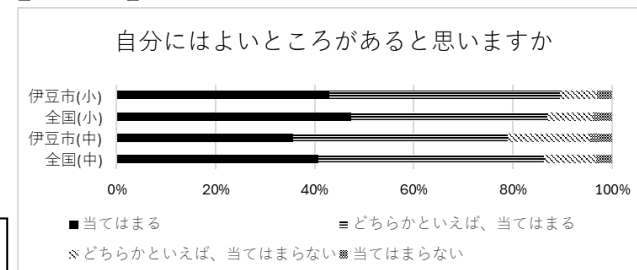
資料6と資料7より、「自分には、よいところがあると思いますか」と「将来の夢や目標を持っていますか」という質問項目に「当てはまる」と回答した児童生徒が全国平均を下回り、自己肯定感を育むことが今後の重要な課題と言えます。

静岡県総合教育センターが作成した資料「自己肯定感育てる授業づくり」では、自尊感情を高めるために大切な自己や他者への気づきについて以下のように示しています。

- ① 自分が主体であることに気付く 例「自分自身を認める」「自己決定する」
- ② 自分自身の役割を理解する 例「役立っていることを実感する」
- ③ 自分の個性と多様な価値観を理解する 例「他者の意見を大切にする」
- ④ 他者との関りを広げ、支えてくれる人に感謝の気持ちを持つ
- ⑤ 努力すればできるという自分への可能性を持つ 例「できたことを実感する」「気持ちの切り替え」

ぜひ、自分のよさを実感できる伊豆っ子を育てるために、今後も伊豆市の教育行政にご協力お願いいたします。

【資料6】



【資料7】

